

伊賀市議会研究研修報告書

伊賀市議会議長 空森栄幸

様

報告者

議員名 近森正利

研修会名

第22回 アメニティーフォーラム

日時

2月9日12時00分～ 2月11日

場所

びわ湖大津プリンスホテル

【研修の成果】別紙記載

費用

旅費 1,322 円 研修参加費 20,000 円

合計 21,322 円



【第22回 アメニティーフォーラム】

学ぶことは、かわること。改めて、やまゆり園から考える。

2016年相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で起きた殺傷事件。田口ランディさんは、事件を止められなかったのはなぜか。人と人とのつながり、ネットワークが大事だ。手をつなげば大きな力になる。

我が国のユニバーサルデザインの行動計画

東京オリンピック・パラリンピック大会2020年は、65歳以上が、3.2人に1人、障がい者が人口の6.7%へ増加し外国人観光客は、4000万人へ増加。東京大会のレガシーは共生社会の実現。共生社会の実現に向けて人々の心の在り方を変える絶好の機会。心のバリアフリーは相互に理解を深めコミュニケーションをとり支え合うこと。すべての子どもたちに理解出来る教育。すべての教員が理解。障がいのある人とのふれあい体験で身につける。公務員・企業における心のバリアフリーの教育。パラリンピアンとの交流をきっかけに共生社会の実現のためのユニバーサルデザインの街づくり及び心のバリアフリーの取組みを実施するホストタウンの推進し共生社会ホストタウン制度の立ち上げ。2016年より募集し現在282団体を登録。パラリンピアンとの交流で住民の意識を変えていく。

欠格条項の見直しについて 東京地検、選挙権喪失は違憲の判決

成年後見制度の利用者数は増加傾向。全体に占める補佐・補助類型、任意後見の割合は少ない状況。成年後見制度利用促進に関する法律が平成28年5月に施行。問題点として制度が十分に認知されていない。財産管理だけでなく、身上監護や福祉的な支援を重視すべき。今後の目標の目標として、利用者がメリットを実感できるように改善。後見人による横領等の不正防止を徹底。『利制限に係る措置の欠格条項を見直す。欠格条項を規定する法律は、公務員等・仕業・法人役員・営業許可・建設業法・道路交通法。障害者権利条約や障害者差別解消法により欠格条項を見直す必要がある。欠格条項を削除し必要に応じて代替的な個別審査規定を整備。』

生活困窮者を支えるための課題と解決に向けた取組み

貧困とは、貧乏プラス孤独です。孤独の中には「困っているのに誰も助けてくれない」という絶望が含まれている。夕飯時に一人でポツンと外にいる子どもに「大丈夫」と声を掛けるだけでもいいのです。困った子どもが身近にいないければ、困った子どもにつながっている場所に寄付をするだけでもいい。企業や個人がこうして貧困者をすくい上げる姿勢を取り続けることが大事。

この世界の片隅に (映画)

戦争というものに真摯に向き合わせ、考えさせてくれる作品。この映画は戦争映画であると同時に、その戦争時代を生き抜いた人々の映画。世界の片隅に生きていたそんな人々がなんとか自分を保ち、支え合いながら普通に生きていこうともがく姿は勇気と希望を与えてくれる。この映画の主役は戦争そのものではなく、その時代を生き抜いた人々。

さとにきたらええやん (ドキュメンタリー映画)

日雇い労働者の街、釜ヶ崎で38年間続く子どもたちの集いの場「こどもの里」。「さとにきたらええやん」は「さとのな所、さとにいるような繋がれる人が皆にいればいいよね」というメッセージ。里に来て日が浅い人や、夜回り中に会おう野宿者の方に子ども達がよく言う言葉。さとに来れば何とかしてくれるってずっと来てる子は知っている。夜回りで野宿する人達にご飯を手渡す子どもたちは、自身も課題を抱えながらも特別なことではなく、他社を気遣うあたりまえの自然な繋がりの姿。いろいろなところや、人の関わりの中に“さと”があるような社会になってほしい。

障がい者の芸術アールブリュット

加工されていない生の芸術、伝統や流行、教育などに左右されず自身の内側から湧きあがる衝動のままに表現した芸術。自身が感動する作品もあれば、受入れにくい作品もあるが、それでよいと思う。

わからないもの、曖昧なものを受容する力ネガティブケイパビリティ北山修

リズムと時間。人間が感じる二つの時間①直線的時間「今は二度と戻ってこない」②円環的時間「今は戻ってくる」。規則的な反復がリズムを生み出す。日本は表うちで欧米はバックビート。日本は田植えのリズムで団体行動。日本人のリズムは「はかなさ」を体得させる文化で桜・雪・蛍・シャボン玉・月。この世は、天災のように想定外に満ちている。人間は日本の四季のように終わるのではなく、めぐることによって安心を感じる。

日本の物語は鶴の恩返しのように最後は消えていく。欧米は美女と野獣のように最後は戻る。同様に人間ではないのが悲劇なのか？

分かるとは、分けられる分類できる。日本人はいいかげん中途半端と言われる。欧米は、あれかこれかである。日本人は、許容量が大きいといえる。大自然から受けるものは、どっちつかず。結論は、「どっちでも生きていける。」ということ。

出発地 三重県伊賀市上野丸之内116

目的地 びわ湖大津プリンスホテル

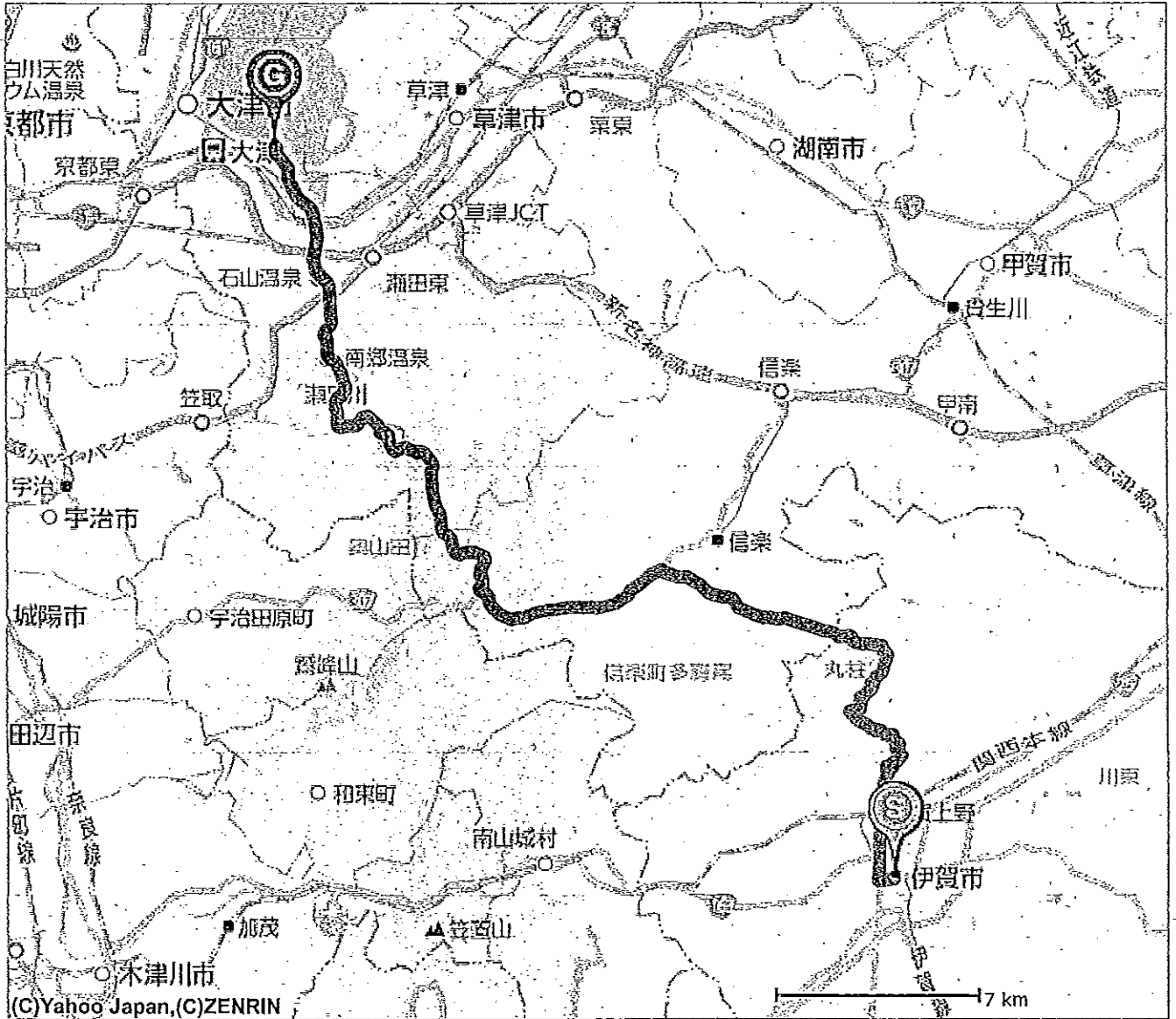
経由地 1.三重県伊賀市諏訪、2.三重県伊賀市諏訪、3.三重県伊賀市丸柱

距離:51.2km 時間:1時間14分

伊賀市役所本庁舎からびわ湖大津プリンスホテルまでの経路

実走行距離 (片道51.2km/往復102.4km)

旅費 往復102km (km未満切捨て) × 車賃37円 = 3774円 × 3日間 = 11,322円



領収書等添付用紙

議員名

近藤正利

調査研究費・(研修費)・広報費・広聴費・会議費・資料作成費・資料購入費
人件費・事務所費

(該当項目に○をつけてください。)

ご利用明細票

お取扱目	店番	お取引内容
30-02-06	22275	カート送金
記号	番号	
*****	***	
取扱番号	お取引金額	
N039	*20,000	
	残高	
関西アーバン銀行		
甲西支店		
普通		
アメニティフォーラムジツコウインカイ シ ムキヨクチヨウ ウシ		
送金料金 *216円		
振込予定日 30-02-06		
1190チカモリマサトシ		

ご利用いただきましてありがとうございました。

ゆうちょ銀行